



今回は、1月14日（木）に行われた「学習指導研究協議会」での道徳研究授業の様子をお伝えします。発表してくれたのは、2年2組でした。40名近い熊谷市の先生方が参観する中、『少年の親切はいくらか』という資料から「感謝し、それにこたえる」ことについて、じっくり考えていました。他クラスでもすでに同様の題材で授業を行っています。生徒の皆さんもその時の自分の意見と照らし合わせながら読んでみてください。



2年生の
場面絵

第1学年 題材『傘の下』（学研）

【ねらい】法やきまりは社会の秩序と規律を守るためにあることを理解し、それらをしっかり守るように努める心を育てる。

【概要】耳と鼻の調子が悪かった主人公のぼくは、学校帰りに病院へ向かった。治療が終わり帰ろうとしたが、止みそうにない雨の前に足止めをくらってしまう。そこでぼくは、傘たてにある傘を自分に都合のよい理屈をつけて病院の傘立てから他人の傘を拝借してしまう。その時に傘をささずに病院から帰る女性とすれ違う。その時、心なしか自分の方を見て、微笑んだように感じた。後日、傘を帰しに病院へ行くと、その女性に再び会い、主人公が拝借した傘を持っていた。主人公はその光景に目を疑いとまどう。

【今日の学習を終えての感想】

- 自分がやって良いことなのか、悪いことなのか考えて行動していこうと思いました。身の周りのことをよく見て行動していきたいと思います。
- 1つ1つの行動は何となくしているだけだけど、良いこと、悪いことなど考えて行動していきたい。人の物は勝手にとらない。
- 自分勝手な行動で人が迷惑することはいけないと思いました。
- きまりは、自分のためにあるもの、または自分以外の全ての人が豊かに暮らすためのものということなので、きまりを。
- 自分がそのくらいいいやと思ってやったことが、それをされた人には、とても迷惑がかかることなので、きまりをしっかりと守りたいです。
- 今日の学習で、人に迷惑をかけなければ、どんなことをしてもいいではなく、いつか、その気持ちが、何人もの人に迷惑をかけてしまうというのが分かったので、今日学んだことを大切にしたいです。
- 今日の学習で、ちょっとした気持ちが大きな事件に繋がることを改めて感じました。判断をしっかりとしていきたいです。

第2学年 題材『少年の親切はいくらか』（学研）

【ねらい】感謝の気持ちの伝え方について考え、より良い人間関係を築こうとする心情を育てる。

【概要】異国で道に迷った「わたし」が、少年の親切に対して、金銭でお礼をしようとする、少年に拒否されてしまう。「わたし」は、少年に拒否された恥ずかしさと後悔の苦い経験をとおして、人間関係を基盤とした、感謝と思いやりの心で人に接する、心のあり方・生き方の大切さについて考えていく。

【今日の授業を振り返って、気付いたこと、考えたことをまとめよう】

- 私は友達とかに親切に、優しくしてもらったら心をこめて「ありがとう」と言いたいと思った。それに、親切にしてもらったら嬉しいから、自分も誰かに親切にしていきたいと思った。
- 「少年の親切はいくらか」を読んで自分で考えたり友達と話し合ったりして、感謝の気持ちを表すことはとても大切さと思いました。気持ちを表す方法はたくさんあるけれど、やっぱり1番大切なのは「ありがとう」の一言だと思います。
- 感謝の気持ちを伝える時は、心を込めて言葉でしっかりと言うことが大切だと分かりました。世の中にお金より大事なことはたくさんあると思うので、何でもかんでもお金で解決するような人にはならずにしたいです。
- お礼の方法はたくさんあるけど、方法によって相手が嫌になってしまうこともあると分かりました。1番大切なのは、方法でなく「心を込めて言うこと」だと思います。
- 少年は、初めて出会った知らない外国人にまで、快く親切をしてくれて優しいし、人間のお手本だなと思いました。その親切を受けたのだから、初めて、出会って相手のことがよく分からなくても、相手の気持ちを考えて、心を込めて感謝するべきだと思います。
- この物語では「わたし」は「少年」にお金だけで、感謝の気持ちを表して、人への感謝は、お金よりもはるかに高い。「言葉」を使ってお礼を言った方が、とても良いことが分かりました。僕も感謝するときは、心を込めてきちんと言葉でお礼を言いたいと思いました。自分も、お金より、言葉で言われた方が、「感謝」の気持ちが込められていて、心が温かくなって、言葉で伝えた方が良いと思いました。
- 親切にされたときは、お金でなく気持ちを込めて言葉で伝えることが大切だと思います。また、少年のようにお金などのためでなく、当たり前の人に親切にできるようにしたいです。

